

第49回 現代のラテンアメリカ

第1部 講演 講師：川端 美都子 (香川大学経済学部准教授)



大阪大学在学時よりアルゼンチン音楽研究を始め、ガウチョの表象を基盤に、同国音楽についての通史的な研究を行い、博士号を取得。インディアナ大学大学院民族音楽学学科博士課程に入学して以降は、音楽を含むアルゼンチンのユダヤ若者文化についての民族音楽学的研究に取り組んでいる。音楽家としては、ラテンアメリカ音楽バンド、Voces del Surのメンバーとして演奏活動したほか、南米バロック音楽を含む様々な企画で現在も演奏活動を続けている。

第2部 演奏 デュオ：Búsqueda Eterna

Yehuda Glantz (音楽家)

1958年アルゼンチン、ブエノス・アイレス生まれ。「ラテンアメリカ・ユダヤ・フュージョン」の先駆者であり、「境界なき音楽家」(músico sin frontera)でもある。現在はイスラエルに拠点をおきながら、各国でコンサートの上演やテレビ出演を果たすなど、世界的に活躍。「ラテン・クレズマー」グループ「ツィガーネス」(Tziganes)の監督でもあり、アシュケナージ、セファルディなどのように区分されてきたユダヤ文化や、音楽ジャンル間の垣根を超えた「出会い」を提供する活動も行っている。南米の民俗楽器であるチャランゴ、シク、クアトロや、ピアノ、ギター、アコーディオン、パーカッションまで弾きこなすマルチプレイヤー。



Maríel Pivin (音楽家)

アルゼンチン、サンタ・フェ州出身の歌手。これまでに携わってきた音楽ジャンルは、ジャズ、クレズマー、タンゴ、ラテン・フォーク、ユダヤ典礼歌など多岐に渡る。アルゼンチンでは、ストゥディオ・シェンキン (Studio Shenkin) という若者を対象とした、アルゼンチン・イスラエル相互協会 (AMIA, Asociación Mutual Israelita Argentina) を主軸としたユダヤ文化プログラムの一環で、ドール・ハダシュ・コミュニティ (Dor Jadash) において、ヘブライ語の歌の指導に携わっていた。2014年イスラエルへと移住。以来、グランツと共に音楽活動を展開している。

第3部 座談

川端 美都子 × Búsqueda Eterna × 林 みどり (本学文学部教授
ラテンアメリカ研究所長)

魂のファイエスタ

ラテンアメリカ・ユダヤの声

11.10. sat. 17:00 ~ 19:20

立教大学池袋キャンパス 5号館 3階 5324 教室

司会・通訳：石橋 純 (東京大学教授)

要予約
定員70名

参加希望の方は、右記 QR コードか以下フォームからお申込みください。
<https://goo.gl/forms/9uBnvydtqYOr2Yi12>



主催：立教大学ラテンアメリカ研究所 (late-ken@rikkyo.ac.jp, 03-3985-2578)